

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	ののはな港南		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 15日		2025年 3月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日		2025年 3月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員や保育士に加え、リトミック講師・SSTスキルを持った職員などの専門職が在籍し、子どもの発達や特性に応じた支援を行っています。	専門職が関わることで、個々の子どもに応じた多角的なアプローチが可能となり、より効果的な支援を行っています。	保護者向けの相談会や勉強会を開催し、家庭と連携した支援を強化することで、子どもたちの成長をより広い視点で支えていくことを目指します。 療育の質を上げるために、専門的支援をさらに拡充させ、職員のSSTスキルも高めていきます。
2	保護者の方々と密接に連携しながら、子どもたちの成長や日々の活動の様子を共有することを大切にしています。そのため、【提供記録の充実】に努め、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりを進めています。	活動の様子を文章だけでなく【写真】で記録し、保護者向けの【オンライン共有ツール】にて提供することで、視覚的に子どもの成長を伝える工夫をしています。	より分かりやすく、家庭での支援に役立つようなフィードバックを提供できるように、新しい職員の研修なども実施していきます。
3	専用システムやスプレッドシートを活用して職員間の円滑な情報共有を行い、子どもたちに一貫性のある支援を提供しています。	専用システムで提供記録を記入する際、毎回個々の支援計画を確認することができます。 一貫性のある支援を提供するため、定期的なミーティングを実施しています。	全体ミーティングの頻度を週1に増やし、チーム全体での支援の統一を図ります。 法人内の他事業所の取り組みも共有し、良い取り組みを積極的に取り入れていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	開所1年目ということもあり、イベントの開催ができる職員の確保や準備時間の捻出が難しかった。	港南区の事業所連絡会にて、他事業所の地域との交流方法についての情報をいただいたため、ののはなについて地域の方に知っていただけるような、近くの事業所や園の子どもたちを招待して交流ができるお祭り等、事業所の立地を活かしたイベントの開催を検討しています。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っていない。	事業所の立地や時間の捻出が要因に挙げられる。また一般開放するには児童の安全確保等も課題となる。	
3	保護者会が未開催のため、施設の最新情報を周知できていない。	今年度は職員一人あたりのプログラム担当数が多く、プログラム準備と日々の療育の提供で手一杯の状態だった。	新年度より新体制となり、イベントや保護者会等の準備ができる人員配置になる予定です。 令和7年度より、オンライン参加も可能な活動報告＆保護者会を開催いたします。 毎回内容を変え、障がいや療育などに関する情報もお伝えできる機会となるよう、職員と内容を検討していきます。